

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のひとつに掲げている『地域に密着したグループホームを目指す』観点からも、地域の中での普通の生活を目標に、出来る限り地域の行事に参加するよう心掛けている。	○	地域との交流や、地域行事への参加は、ややもすればスタッフ中心となりがちなので、今後はもっと利用者ひとりひとりが地域に溶け込めるよう努力したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内(玄関・事務室)に掲げている。また、細目を挙げる訳ではないが、ケアカンファや日常介護現場での会話の中で、自然に理念を共有している。		僅か4項目147文字の理念だが、開設より5年を経て、ひとつひとつの奥深さと、実践の難しさを実感している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議に於いて、ご家族や地域の皆さまに理念の浸透を図っている。また、ホーム便りとしての『あしたば通信』を月に1回発行して、ご家族と地域の方々々に配布している。	○	個人情報保護等の観点より、現在『あしたば通信』の発行を休止して内容の見直しを行っている。今後は、ホームの役割や理念等を啓発し、ご家族にも地域の方々にも溶け込んだ内容とすべく取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	スタッフと利用者ほぼ全員が隣近所と顔見知り、買物や散歩の際にはお互いに挨拶を交わし、ボランティアでの演奏会や、自宅で栽培した季節の野菜や花樹を届けてくださる。また、ホーム内でのイベントにもご招待し参加していただいている。	○	今後はもっと認知症についての啓蒙を図り、利用者の方々が積極的に地域に出掛け、また、近所にお住まいの方や登下校中の小学生等が何時でも気軽に立ち寄っていただける環境を整え、アピールして行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の文化祭には、利用者の方々が近所の方に教えて頂きながら作った布草履やリースを出展。小学校の総合学習や中学生の職場体験学習等を受け入れ、また、近隣の方々を招いてのイベントを開催するなど、積極的な交流に努めている。		利用者の方々が、地域の一員として、地域に溶け込んだ生活を送ることが出来るよう、ひとりひとりの状況に合わせたサポートに努めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開設5周年の記念行事として、地域の市民センターで『認知症とグループホームについて』の啓蒙活動を行う計画もあったが、準備不足等で実現には至っていない。	○	同一地域で直近に在る別事業所(グループホーム)とも連携を取って、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを話し合い、その実現に向けた取り組みを実践して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は、理念を実践するための方針を考える良い機会と捉えている。従って、その評価内容を真摯に受け止めて、改善すべき点については、会議等でその具体的方策を検討して改善に努めている。	○	実際の日常介護現場では、理想と現実との間に大きなギャップがあることは否めないが、コンプライアンスを遵守して、より良い認知症ケアを実践出来るグループホームを目指し、改善計画書を作成する等、積極的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて、サービスや行事内容等についてのアドバイスをいただき、地域の方々と一緒に消火避難訓練や花壇作りを行うなど、運営について積極的な協力を得られるようになり、これらをサービス向上に活かしている。	○	地域の方々から協力をさせていただくだけでなく、外部評価の結果を積極的に公表して、'グループホームあしたば'として地域の方々には何か出来るかを考えたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区町村との連携は、現在のところ運営推進会議が主体となっており、それ以外は、問題事案発生の都度に相談しているのが実態である。	○	今後の課題として、市区町村担当者と随時交流できる機会を設け、更なるサービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会等で権利擁護に関する制度の研修に参加し、参加出来なかった職員には資料の閲覧等を行っている。しかし、法律上難解かつナイーブな面があり、現状としては必要な方に権利擁護の窓口またはこれに詳しい弁護士等を紹介している。	○	まずは、運営者・管理者・職員の内より1名、権利擁護事業や成年後見制度について、ある程度詳細に把握出来た者を配置し、順次これを全職員に広めて、全利用者・ご家族に随時説明出来る体制を布きたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会に参加した職員を講師とした内部研修を行い、全職員が身体拘束のみならず、精神的拘束・スピーチロック等についての見識を高め、且つ、ご家族にもその啓蒙を行い虐待防止の徹底に努めている。	○	今後も継続して、あらゆる虐待の発生しないよう、更なる努力をしたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の締結や解約に際しては、十分な説明を行い、また利用者のご家族の意見を十分に聴取して、理解と納得を得られた場合のみに同意書を交わし、お互いに誤解が生じる事がないよう、十分に納得していただいた上で、これを行うこととしている。		利用契約の締結や解約のみならず、契約内容に変更等が生じた場合にも、十分な説明を行い、理解・納得を得たうえで、これを行うこととしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がスタッフに対して自由に苦情や意見・不満を言える関係を築いており、管理者はこれを集約して運営やケアプランに反映させるべく努力をしている。	○	行政に対して、介護サービス相談員の派遣を要請して、これを受け入れて、利用者の生活の質の向上に努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は必ず、担当介護スタッフからの手紙と預り現金出納帳を郵送し、来訪時に口頭で、或いは個々の変化に応じて電話でも近況報告をし、ご家族と連絡を取りながら対応している。	○	諸般の事情で休止中のホーム便り(あしたば通信)の発行を、8月上旬を目処に再開して、ご家族や地域の方々への報告等を充実させたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等から意見・不満・苦情等があった場合には、これらを謙虚に受け止めて、些細な事であっても会議等で対応策を検討、また、必要に応じて第三者にも相談して速やかに改善し、運営に反映出来るようにしている。	○	ご家族等は意見・不満・苦情等を直接スタッフに伝え難いこともあろうかと考え、現状の苦情相談窓口以外に、第三者で構成する窓口の設置を検討しており、また、これらをホーム便り等で公表して、より良い運営に活かせるようにしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ、利用継続の可否、職員の採用をはじめ、運営に関する殆どの事案につき、運営者・管理者が職員の意見・提案を取り入れて、運営に反映させている。		今後も、このシステムを継続して、運営を更に活性化したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やご家族の状況の変化、或いは職員の急病等で介護の現場が手薄になることが予測される場合は、公休の職員に代勤して貰った後に勤務調整をしたり、運営者・管理者等通常の勤務シフトに入っていない者が、これをカバーを出来る体制を布いている。		今後も、このシステムを継続して、運営を更に活性化したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が相互に悩み事を相談し易い雰囲気をつくり、勤務条件の希望に対応できる体制をとって、出来るだけ長きに亘って勤務できるよう努力をしている。また、新規に職員等を採用した際には、利用者へのダメージを抑える為に、管理者等と1対1での指導・研修を行っている。		今後も、このシステムを継続して、利用者がより安心して生活できるように努めたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に際しては、年齢・性別・宗教・出自等を理由にして採用の対象から外すことはない(定時制高校に通う16歳や、70歳を超えた職員も居る)。また、資格取得の為の補助を行い、職員が自らの有する能力や特技を発揮して勤務出来るよう配慮している。		今後も、このシステムを継続して、スタッフの更なるスキルアップを目指したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者・管理者は、職員の人権教育啓発活動として自らが人権に関する外部研修に参加し、会議や日常の介護現場等で、いつも利用者の人権尊重について話し合っている。		今後も継続して、職員等の人権教育・啓発活動に関する意識を高めたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、介護の質の更なる向上を目指して各種の研修を行っている。職員も積極的に外部研修会に参加し、参加出来なかった職員ともその内容を共有できる体制を布いている。また、いつでも助言等の出来るリーダーも居り、職員各自のスキルアップを目指している。	○	事業所としては必要に応じた研修を、その都度実施しているが、今後は事業所全体の研修計画で、個々の職員に応じた研修の機会をつくり、更なる向上を目指したい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入して、管理者や職員が研修会や親睦会等に参加。また、他事業所とも合同勉強会や相互訪問等で交流を維持し、日頃から連絡を取り合うことでも、サービスの質の向上に努めている。		今後も、このシステムを継続して、運営を更に活性化したい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホームは、利用者から見れば家庭であるが、職員にとっては職場であることを念頭に置き、厳しさの中にも潤いと笑いのある環境をつくり、職員のみならず利用者のストレスをも軽減出来るよう努力している。		今後も継続して取組み、職員・利用者にとって、より良い環境となるように努めたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	長所・短所を認め、褒めるべき処は褒め・叱るべき処は叱り、管理者や職員の個性を伸ばし、各自がプライドを持って働く事ができるよう、常に全スタッフとの対話を欠かさないようにしている。	○	介護方針やイベント企画等の運営は、管理者・職員に主体性を持たせて自主的に行うことで、更に生き活きと働く事のできる環境づくりに努めたい。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談が具体的になった時点で、ご家族等からの聴き取りを開始し、ご本人には体験利用をしていただきながら、ご自身の不安や要望を聴取して、より良い関係を築けるよう努力をしている。	○	聴き取りの内容をもっと深いものとし、ご本人が言い難いことをも聴き出して、実際の介護に活かせるよう、更に努力をしたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談が具体的になった時点で、ご家族等からの聴き取りを開始し、ご本人が体験利用をしている間も、ご家族の不安や要望を聴取して、より良い関係を築けるよう努力をしている。	○	聴き取りの内容をもっと深いものとし、ご家族等が言い難いことをも聴き出して、実際の介護に活かせるよう、更に努力をしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がグループホームでの支援を望んでいるかを見極め、ご本人にとって最適な介護サービスを選択出来るよう、ご本人・ご家族・管理者が密に連携をとるようにしている。	○	ご本人にとって最適な介護サービスを選択するに当たっては、現状(在宅時等)の介護支援専門員や主治医等とも密な連携をとるようにしたい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用をしていただき、職員や他の利用者並びにホームの雰囲気徐々に馴染んでいただけるよう、ご本人に合わせた柔軟な対応をし、ご家族とも相談・調整をしながら、お互いが安心してサービスの利用を開始出来るようにしている。	○	ご本人が居られる所(自宅や病院等)を職員が訪問して、顔馴染みの関係を築きつつ状況を把握し、ご本人が安心してグループホームに来られる雰囲気づくりを構築したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜栽培や料理の作り方等、夫々の利用者が得意とする分野には積極的に係わってもらい、職員と利用者が共に教え教えられるながらの関係の中で生活をしている。		身体機能の低下している方やコミュニケーションの取り難い利用者や「共に過ごし、学び、支えあう」関係を維持するのは困難かもしれないが、出来る範囲の中で無理せずに努力したい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は、良いも悪いも総てをご家族に伝えて、共に良い生活を送ることが出来るよう、ご家族と職員は常に連絡を取り合っている。	○	「お任せします」で、殆ど連絡して来ない一部のご家族に如何に“共に支えあう”ことを理解し実践していただくかが、今後の課題である。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	管理者・職員は、利用者の状況をご家族との手紙や電話で随時連絡し合って、本人とご家族の思いが通じ合えるよう努力している。また、諸種の記録はご家族に常時公開している。	○	利用者本人とご家族夫々の思いが互いに通じ合えるよう、ご家族には出来るだけ多くの外出・外泊を奨め、出来るだけ多く訪問していただき、相互のコミュニケーションづくりに努めたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力して、旧知の方に訪問していただいたり、在宅時によく行かれていた所(井筒屋・職場OB会等)への外出を支援している。	○	現状、日中落ち着かずに常に職員が付いていなければならない方が居られるので、他の利用者に対する支援が手薄になりがちであり、この点について早急に改善したい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は出来るだけリビング等で一緒に過ごしていただくようにしているが、自室で過ごすことを好まれる方には、職員が他の利用者と共に訪室して相互に支えあえるよう支援している。	○	現状、日中落ち着かずに常に職員がついていなければならない方が居られるので、他の利用者に対する支援が手薄になりがちであり、この点について早急に改善したい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何らかの事由で利用契約が終了した方やそのご家族等には、何時でも連絡していただけるよう御案内しているが、必要に応じての連絡以外疎遠になりがちである。	○	四季のお便りなどのお手紙等で連絡を取り、いつでも相談等に応じることが出来るよう努めて行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが利用者と共に行動し会話をするこ とで、ご本人が発する小さな情報を把握し、全部 が全部ではないが、ひとりひとりが望むに近い 生活を送ることが出来るよう、職員同士で、ま た、ご家族とも話し合っ て取り組んでいる。	○	利用者本位のケアマネジメントを実践するにあ たっては、本年度より「センター方式」を導入し、 個々利用者に相応しいケアが出来るよう、更な る取り組みを始めた。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これま でのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始に際し、ご本人ご家族等からの聞き取 りをして、これまでの暮らしについては一応の把 握をしているが、充分とはいえない部分がある。	○	本年度より「センター方式」を導入して、ひとりひ とりの利用者に相応しいケアが出来るよう、更な る取り組みを始めた。これを利用して、個々の 利用者の生活歴等の把握に努めたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現 状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方や心身健康状態については、介 護記録や健康チェック票で総合的に判断し、疑 問な点が生じたときには主治医等に相談して、 現状の把握と健康の維持に努めている。		共同生活の中でのストレスを見逃す、或いは、 年齢的にこんなものだと思い込んで利用者の変 化を見逃すことのないよう、職員には『‘慣れ’は 仕事を正確・迅速にするのによいが、‘馴れ’に 陥らぬよう』常に注意を喚起している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やア イディアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、ご本人の意向や生活習慣が反 映されるよう職員で話し合い、主治医等の関係者 の意見やご家族等の気付かれた事やアイデア を盛り込んだものとなるように努めている。	○	今後は、利用者ご本人と一緒に「生活の目標」を 考えて、地域で個性を活かした生活を送ること が出来るよう、更に努力して行きたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前 に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全利用者の介護計画についての検討を毎月1 回は実施している。また、利用者やご家族の状 況等に变化のあった場合や、特に要望が届いた 場合には、時期に係わらず柔軟かつ臨機応変 に介護計画の見直しを行っている。		見直しの時期以前の状況変化については、これ を十分に把握して、ご家族や主治医等の関係者 と相互に納得できる話し合いを行ったうえで、介護 計画の更新・変更を行えるよう、今後も継続した い。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録 に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに 活かしている	介護記録から利用者個々の生活を見ることがで きるよう、会話内容等についても記録をしてい る。また、ケアプランに即した行動等には、特に 印を附して情報を確認・共有し、計画の見直しや 実践に活かしている。		各利用者を担当するスタッフが特に責任感をも って、夫々の利用者がより良く暮らすことが出 来るよう考え工夫して、ケアカンファ等で活発な 意見を出し合い、これらを見直しに活かすことが できるように努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身の状態が重度化した場合には、普段よりも協力医療機関等との連携を強化して対応できる体制を布いている。また、専門インストラクター等による訪問マッサージや体動レクも行なうなど、個々の要望に応じて柔軟に対応している。	○	専門インストラクターによる体動レク等には、ご家族や近隣地域にお住まいの方々にも参加していただけるよう声掛けをしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練に地域の方や消防署員にも参加してもらい、又、地元駐在所警察官には巡回時に立寄ってもらうほか、非番の日にはホーム行事に参加して頂き、利用者を知っていただいている。		小・中学校の総合学習・職場体験学習等やボランティアによるハーモニカや篠笛の演奏会なども行っており、これらを通じてグループホームを理解していただき、地域との協働を深めたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの他事業所とは日常より交流がある。また、グループホーム協議会にて紹介を受けた認知症専門医より必要に応じたアドバイスを戴いたり、訪問マッサージも利用している。	○	利用者が他のサービスを利用するための情報を今以上に集めて、更なる生活の質の向上に努めたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会には地域包括支援センターからも参加していただき、多岐に亘って協働出来るよう話合っている。	○	事業所の多機能性を活かすためにも、今後は、もっと地域包括支援センターとの協働を密にするよう努めたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が望まれるかかりつけ医の受診を第一選択として相互に連絡をとっているが、協力医療機関にて毎月の健康診断をし、体調の変化に応じても随時受診することでも、速やかに適切な医療を受けることが出来る体制を整えている。	○	協力医療機関以外の、特に大規模病院に所属するかかりつけ医との連携に不十分な面があるので、この点についての補強を講じて行きたい。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師等とは、必要に応じて相談をし、治療等に応じてもらっている。		県グループホーム協議会より認知症に詳しい専門医の紹介を受けて、職員が何時でも相談をして利用者を受療していただける体制作りにも努めている。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理や疾病等を患った場合には、主に協力医療機関の医師・看護師或いは調剤薬局の管理者・薬剤師等にいつでも相談できる体制を布いている。		今後も、これを継続して、利用者の健康の向上に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、ご本人が安心できるよう管理者等が医療機関を訪問し、担当医師・看護師等との情報交換を行って、退院後も早期に元の生活に馴染んでいただけるように努めている。		今後も、このシステムを継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、且つタイミングを見計らって、ご家族やかかりつけ医等と何度も話し合っている。また、ケアカンファでも討議して、ご本人ご家族とスタッフが相互に納得したうえで、全員が方針を共有している。	○	最近初めて看取りをさせていただいた事で、不十分な点も確認出来た。この経験を生かして、今後は出来るだけ早い段階から多くの関係者と連携をとり、重度化した際の対応等について、ご家族と共に支える体制を強化したい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として“努力はするが、無理はしない”を原則に、重度・終末期となりつつある利用者の状態をかかりつけ医等に診てもらいながら、グループホームとして出来ることを職員で討議して対応・準備している。	○	重度化した場合や、終末期を迎えた場合にも、より良く暮らしていただけるチームケアについては、事業所として「出来ること、出来ないこと」の見極めを行って、今後の支援体制を充実させたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを最小限に食い止めるため、ご家族は勿論、ご本人に係る保健・医療・福祉の関係者と話し合い、必要に応じた十分な情報提供を相互に行っている。		住み替え等の必要があるときは、管理者・職員が本人・家族等と一緒に先方を訪問するなど、お互いが安心できるようは配慮している。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の利用者の個性とプライバシーを尊重し、声掛けや介助については場所とタイミングに留意している。また、個人情報の保護についても、注意した取り扱いをしている。		より一層、利用者の自尊心や羞恥心に配慮したケアを継続できるよう、全スタッフに対しての周知徹底に努めたい。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の着替えや献立・外食のメニュー等、個々の利用者の自己決定と希望の表出を大切にしており、日常的な選択の場面作り等で、それらを促すような支援を行っている。	○	自己決定や希望の表出が困難な利用者にも二者択一や、ひと呼吸待つ等の配慮で、今後も利用者の生活の質の向上に努めたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、ご本人のペースと意思を尊重し、例えどんなに時間がかかってでも、その人らしい生活を送ることが出来るよう、スタッフは側面から支援している。		今後も、これを継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者ご本人と相談しながら、その日に着る服を一緒に選んだり、時にはスタッフがヘアカラーをしてさしあげたり、また、理美容室では好みの髪型を伝える等の支援をしている。	○	以前からの馴染みの理美容室等があれば、そちらを利用できるよう支援するなど、今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夫々の出来ることに応じて、月に何度かはメニュー作りから利用者に参加していただき、買出し、調理、盛付、配膳、片付けまでを一緒にしている。また、普段から利用者とスタッフが同じ食卓を囲むことで、楽しく食事を摂っていただいている。		今後も、このシステムを継続して、利用者の食事が楽しいものとなるように努めたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	原則として禁酒・禁煙だが、個々の健康状態に配慮しながら、お菓子類や煙草・豆乳等の買物には職員と一緒に出掛け、買物のメニューを考えるとところから楽しんでいただいている。		利用者の健康と安全及び衛生管理の観点から、一部の嗜好品は止むを得ず、ご本人納得のうえ、ホームで一時預ることもある。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間は紙パンツでも日中は布パンツとするなど、個々の排泄パターンに合わせた声掛け誘導で失禁防止に努めている。便秘気味の方にも薬剤に頼らずに自然排便あるよう支援している。	○	排泄チェック表の活用で布パンツで生活できるよう、また、水分や食事を工夫することで薬剤に頼らずに排便があるよう、更なる支援に努めたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	衛生管理上、入浴間隔が空かないように一応のスケジュールを設定しているが、利用者個々の意向に応じたタイミングで楽しく入浴していただけるよう配慮した支援を行っている。	○	出来る限り一般家庭での入浴に近い状態に近づけるよう、時間帯や回数を改善できるように職員の勤務時間帯を調整する等、利用者が入浴を楽しめるような取組みを行いたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人別の生活リズムを把握して、日中でも自宅でゆっくり休息・昼寝をしていただけるよう声掛けをし、夜間眠れない場合には散歩等で生活パターン改善等の対応を行っている。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な饅頭(うどん)や煮豆を作ってもらったり、畑での野菜作り・裁縫等々、利用者が夫々の楽しみや出番を見出せるよう、相互扶助の気持ちで個々に合った場面作りの支援を行っている。	○	裁縫や畑仕事等では、危険防止の為に、つい、スタッフが手を出しすぎて、ご本人の意欲を削ぐ場面も多々ある。今後はセンター方式の活用で、利用者の気持ちや力を活かした支援を充実できるように努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は所持している利用者も居るが、基本的には金銭はホームでお預りをして管理し、その都度お渡しするようにしており、個人的には所持していただかないようにしている。	○	今後は、利用者の希望や力量に応じた支援を行い、ご自分でお小遣い程度の金銭管理が出来るような支援体制に向けて努力したい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日にはほぼ毎日、散歩等で外にお連れできるよう声掛けをして、個々の希望に応じて積極的に近所に出かけて陽光の下で楽しめるような雰囲気づくりに努めている。	○	月毎の行事・外出レク・外食等でのお出掛けは勿論、ご家族にも出来るだけ頻回訪問してもらい、ご一緒に外出していただくよう奨めていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みの場所や祭礼・故郷訪問等、利用者が行きたい所を把握して、スタッフやご家族と共に出掛けることが実現するよう支援している。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話を掛けることは殆どないが、掛かってきた電話は必ず取り次いでいる。また、絵手紙等での季節の頼りや、年賀状・暑中見舞いを書くことを勧めている。	○	スタッフは、利用者自らが、ご家族等への電話で近況等を話す機会を導き出す努力をして、交流の支援を強化したい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「利用者が“自宅であれば、こうしたであろう”」…を考えて、来訪者には茶・菓子を提供し、‘おもてなし’の心で心地良く過ごしていただき、何時でも訪問していただけるよう心掛けている。		今後も更に工夫を継続し、誰でもが何時でも自由に訪問していただくことが出来るよう支援して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は勿論、ベッド柵の位置やスピーチロック等、用法を少しでも誤ると身体拘束となることを全職員が研修会等で学び、これを理解して実践している。		今後も研修等での理解を更に深めて、利用者の生活の質の向上に努めたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を支え、利用者のみならず、ご家族や地域の方々に心理的な圧迫をもたらさないよう、外出の察知や外出傾向の把握等で、日中は玄関等の施錠はしていない。		玄関を人が通った際には、威圧感を与えないような小鳥や犬の鳴き声がするセンサーを置いており、好評を得ている。また、止むを得ず鍵を掛ける際は、その理由を全家族に説明している。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に個々の利用者的人格とプライバシーを尊重した言葉掛け(訪室時のノック、挨拶等)で対応し、利用者へ背を向けることのない体制で日々のケアを行っている。	○	利用者を目線と同じくして、人生の先輩として接するよう心掛けているが、充分とはいえない面もあり、その点は改善するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一般的に洗剤・髭剃り等の注意が必要なものは、事務室内ロッカー等施錠できる箇所に保管しているが、居室に於いては個々の状態に即した対応をしている。	○	危険物の保管場所には施錠しているが、これによりイライラ感が募る利用者も居られるので、スタッフが充分に見守りをする事で極力施錠をしないよう努力をしたい。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成して対応している他、月に2～3回のケアカンファでも、転倒や誤嚥の恐れがある利用者個々の状態に応じた対策を話し合って実践している。	○	見守るだけではなく、転倒の恐れがある場合には下肢の筋力アップ。また、誤嚥の恐れがある場合には食べ物を適度な大きさに刻む……等、ひとりひとりに応じた対応を充実させたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は、まだ行っていないが、協力医療機関と連携して、個々の利用者についての緊急連絡手順を整え、即時に対応できるように備えている。	○	救命救急の講習会や研修を受講して、これらに対応できる知識や技術を習得し、全職員での訓練を定期的に行っていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防・避難訓練には、利用者は勿論、地域の方々にも参加していただいております。災害時には利用者の保護等を依頼し、協力を得ている。	○	これまでは火災対応で各種の訓練を行ってきたが、今後は、地震や台風等の風水害を設定した訓練も行いたい。また、災害に備えた備蓄等についても検討し準備したい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	医療機関ではないので対応しきれない場合、また、どうしても防ぎきれない事案等もあり得ることを説明したうえで、ご自宅での生活に近い自然な生活となるよう話し合っている。		リスクについては、その都度、ご本人ご家族等との話し合いの場をもっており、これを今後も継続して、ご本人にもご家族にも抑圧感のない生活の提供を維持したい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	Vital Checkを毎日行い、顔色や食欲等に変化があった場合には職員間での情報共有を図って、ご家族にも連絡を取り、速やかに協力医療機関等を受診していただいている。		体調変化等で利用者に転倒の恐れがある時、利用者同士でトラブルに発展しそうな時には、その都度、ご本人ご家族等との話し合いの場をもっており、これを今後も継続して行く。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように個人別与薬票を作って、処方された薬の仕分から与薬までに3度のチェック体制を布いている。特に、これまでと違う薬が処方された場合には体調の変化に留意している。	○	利用者の服用している薬については、全職員が目的・用法・用量を理解しているが、今後は副作用についても、薬剤師等の支援を受けて研修して理解できるよう努めたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランスの良い食事と、散歩や体操等の運動及び水分摂取でスムーズな排便となるよう支援しており、特に便秘がちな方には、豆乳・ヨーグルト等で便秘の解消に努めている。	○	便秘を改善する薬等には極力頼らずに済む工夫をするとともに、運動・食べ物・水分摂取での便秘予防にも、これまで以上に取組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの声掛けをしており、ご自分で十分な歯磨きをすることが困難な利用者には、一部介助にて、口腔内の清潔が維持できるよう支援している。	○	スポンジ歯ブラシを使うことによる、歯の表面・歯茎・口蓋・舌の汚れ(舌苔等)の除去にも取り組んでいきたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食が進まない場合には、御粥・雑炊・素麺・卵豆腐等を、また、水分摂取量の少ない方には豆乳や野菜ジュース・ヤクルト等飲み物の種類を選べるようにしている。		利用者ご本人が嫌いな食べ物がある場合については、状況にもよるが、別メニューで対応することもある。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、特に注意が必要な時期には勉強会等で資料を配布している。また、専属の栄養士を中心として食中毒の予防に取り組んでいる。	○	日常より感染症の予防・対策と、万一発生した場合の対応策等についての理解を深めるべく、研修会等に積極的に参加し、事業所内研修も充実させていきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専属の栄養士の指導で、調理用具・食器や台所・冷蔵庫等の消毒・殺菌に関する衛生管理マニュアルとチェックリストを作成して、食中毒の予防に努めている。		食中毒等の発生が無いように、今後も継続して、食器や食材等の衛生管理に努めたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花壇を作り、門扉を設置することで、一般家庭と同じような親しみやすい雰囲気となるように工夫をしている。		職員・来訪者の駐車スペースを工夫して、もっと家庭的な雰囲気となるよう、今後も継続して行きたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当事業所の周辺は、自然豊かな環境で季節感に溢れており、食事作りの音や匂い、季節の花々等で五感に働きかけるような心地良い刺激を生活空間に取り入れ、また、出来るだけ自然の空気での換気や温湿度の調節を行っている。		利用者が落ち着いて暮らすことが出来るよう、テレビの音や職員の会話のトーンに配慮し、また、レースのカーテンで陽射しや照明度を調節するなど、できるだけ家庭的な雰囲気を感じていただけるよう工夫している。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にも、居間のソファーや床の間の炬燵・中庭のベンチ等、独り又は気の合った利用者同士で過ごせる場所を確保している。		独り又は気の合った利用者同士で過ごしているときには、そっと見守りながらお茶を提供する等の配慮もしている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にベッドは備え付けているが、家具や装飾品等は馴染みの物を使い、それらを利用者の希望に沿った配置として、心地良い生活を送っていただけるよう工夫をしている。		今後も継続して、利用者が快適に過ごすことが出来るように努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ほぼ毎日、適時に窓を開けており、換気には特に気をつけている。また、エアコン使用時には、各居室等に設置した温室時計で外気温との差が大きくなることのないよう確認して、小まめに調節をしている。		当事業所の周辺は、豊かな自然に恵まれているので、エアコンの使用は極力弱めにして、自然の風を利用して快適に過ごしていただけるように配慮をしている。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・浴槽には手摺りや滑り止めを設置し、また家具等は事故につながることはないよう注意と工夫をした配置としており、利用者が安全に自立した生活を送ることができるよう、常時配慮と工夫を重ねている。	○	今後も継続して、利用者が安心した生活を送ることができるよう、更なる安全への取り組みに努めたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入口には表札や暖簾や似顔絵等を掛け、トイレには大きな文字で“便所”と表示して、利用者が迷ったり混乱することのないように工夫をしている。また、利用者に応じた目線の高さに印を付けて、混乱や失敗のないように気をつけている。		今後も継続して、利用者が安心した生活を送ることができるよう、更に工夫を重ねたい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	窓辺のフラワーボックスに鉢植えを置いたり、居室の窓から畑を見て野菜等の生長を観察するなど、日々を楽しんでいる。また、菜園で野菜や果樹等を栽培しており、花火や餅つき等の行事を中庭や玄関の周囲で行っている。	○	玄関の周囲や、広い中庭や裏庭等を、もっと活用して、利用者がもっと楽しめるような工夫に努めたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者の 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいの 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいの 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①毎日ある 《 <input type="checkbox"/> 》②数日に1回程度ある 《 <input type="checkbox"/> 》③たまにある 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 <input type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input checked="" type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 <input checked="" type="checkbox"/> 》①ほぼ全ての利用者が 《 <input type="checkbox"/> 》②利用者の2/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》③利用者の1/3くらいが 《 <input type="checkbox"/> 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《○》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《○》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《○》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《○》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《○》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《○》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《○》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない